

# 平成22年度水道事業会計決算報告

## 業務状況(表①参照)

平成22年度は、年間総配水量、年間有収水量、有収率について、前年度を上回る結果となりました。その要因は、景気持ち直しによる製造業の使用水量の増加や平成20年度から実施している漏水対策等によるものと考えられます。一方、給水人口は、前年度を下回る結果となりました。

## 財政状況(表②参照)

本年度の総事業収益は3億3506万円、総事業費用は3億4978万9千円となりました。それらの差額である純損失1472万9千円には、利益積立金を充当します。一方、資本的収入は3623万7千円、資本的支出は2億1975万4千円となり、この1億8351万7千円の不足額は、過年度分損益勘定留保資金、当年度分損益勘定

留保資金および減債積立金で補填しました。

## 総括事項

毎年安心できれいな水道水の安定供給を図りながら、勝山市水道事業の健全な財政基盤の確立に努めています。主な収入である水道料金収入は、給水人口の減少はあるものの、景気持ち直しによる製造業の使用水量の増加により、対前年比3・36%の増収となりました。一方、支出においては、減価償却費や企業

債の元金償還が増加し経営は厳しい状況が続いています。今後も、清浄で安全な水の供給を図るため、既存水道施設の維持管理の充実を怠ることなく、また累増する企業債の元金償還に要する費用および減価償却費に対応し得る経営基盤の確立が必要と考えています。なお、水道事業会計の健全な経営のため、平成23年度に水道料金の値上げを実施しており、平成24年度についても水道料金の値上げが決定しています。

表① 業務状況

項目	業務量	前年度比
給水人口	22,936人	-1.22%
給水戸数	7,192戸	-0.65%
年間総配水量	3,090,356m <sup>3</sup>	+3.31%
年間有収水量	2,526,517m <sup>3</sup>	+3.64%
1日最大配水量	14,981m <sup>3</sup> (平成22年12月31日)	-0.55%
有収率	81.75%	+0.32%
導送配水管延長	297,363.9m	0.00%

表② 財政状況

### 【収益的収支(税抜)】

区分	22年度決算額	21年度決算額
収入	3億3,506万円	3億2,338万7千円
支出	3億4,978万9千円	3億5,938万1千円
差引	-1,472万9千円	-3,599万4千円

### 【資本的収支(税込)】

区分	22年度決算額	21年度決算額
収入	3,623万7千円	4,093万6千円
支出	2億1,975万4千円	2億5,694万4千円
差引	-1億8,351万7千円	-2億1,600万8千円

表③ 主な拡張事業

事業名(工事名)	地係	事業費(工事費)
簡易水道事業統合に伴う上水道事業変更認可設計業務委託	平泉寺町 大矢谷ほか	876万8千円

表④ 主な改良事業

事業名(工事名)	地係	事業費(工事費)
一般県道藤巻・下荒井線石綿管布設替工事	遅羽町比島	747万4千円
市道6-3号線ほか石綿管布設替工事	郡町 1・2丁目	598万9千円
市道7-2号線ほか石綿管布設替工事	旭町 1・2丁目	438万5千円

水道料金表 (税別、口径50ミリ以上は省略)

メーター口径	基本料金 10m <sup>3</sup> まで			超過料金 1m <sup>3</sup> につき			
	22年度	23年度	24年度	11m <sup>3</sup> ~30m <sup>3</sup>	31m <sup>3</sup> ~100m <sup>3</sup>	100m <sup>3</sup> ~	
13ミリ	1,050	1,100	1,150	22年度 105	120		145
20ミリ	1,200	1,250	1,300	11m <sup>3</sup> ~30m <sup>3</sup>	31m <sup>3</sup> ~50m <sup>3</sup>	51m <sup>3</sup> ~100m <sup>3</sup>	100m <sup>3</sup> ~
25ミリ	1,400	1,450	1,500	23年度 113	128	130	155
40ミリ	1,600	1,650	1,700	24年度 120	135	140	165

※22年度：平成23年4月検針分(3月使用分)まで  
23年度：平成23年5月検針分(4月使用分)～平成24年4月検針分(3月使用分)  
24年度：平成24年5月検針分(4月使用分)以降

水道事業会計決算の詳細については、決算書を市立図書館に備えてありますのでご覧ください。  
上下水道課(市民会館2階)  
☎88・8109

# ものづくりにも挑む!

## 平成22・23年度の成果報告

先月号に続き、ものづくり技術・研究開発支援事業に認定された企業等の事業者の事業経過やその成果についてご紹介します。(順不同、敬称略)

### 剥離設備の開発により

#### 再処理工数を削減

(株)フクタカ

自動車部品製造において、表面処理工程で発生したメーカ支給品の不具合を剥離再処理する設備を開発できたことで、メーカ支給品の生産活動に与えてきた支障を解消することができました。

この技術の習得には、コンサルタント指導の下、ライン設計から不良品の原因追求、不良データの解析など、大変苦戦しましたが、この開発に取り組んだことが社員のスキルアップに繋がりました。



### シルク製品の新規開発

(株)啓・(株)東野東吉織物

勝山で織られるシルクの効能を唱えた製品として、織り、染色、縫製の役割を明確にし、大型旅館の部屋着(シャツ、パンツ、アメニティーグッズなど)を企画開発しました。大型旅館との商談では、単価や素材メンテナンスに課題が残る、残念ながら契約には至りませんでした。

現在は、販路の方向を一般消費者に着目し、インターネット販売で顧客獲得に乗り出しています。



### タッチパネル方式

#### 次世代プレゼンテーション

チエルト(株)(現ケイター・

テクシーノ(株))



情報ネットワークのインフラ整備が進むなか、タッチパネルを使用したプレゼンテーションは、これから大きな市場性が期待できると考えています。

クラウドコンピューティングに見られるように、高度の環境ネットワークを活用することで、さらに便利なツールが登場すると予想されます。この事業の取り組みに際し、2回にわたりモデルを製作し、評価を受けてきました。「直接触れる」と言ったインテラティブな対する関心度の深さを読み取ることができ

ました。顧客のニーズに応えるためには、顧客の情報を正しく整理し、求めるものを明確に理解して一緒に作る事が重要であると感じました。

### 「恐竜体験イベント」と

#### 「化石恐竜たまご」の拡販

(株)グリーンサラダ

「恐竜体験イベント」とは、リアルな恐竜模型の展示や化石発掘体験などで、子どもたちが恐竜に興味を持つようなイベントです。また「化石恐竜たまご」は、石膏で固められた卵の中に恐竜フィギュアが埋め込まれていて、簡易工具を使って掘り出す発掘疑似体験です。



### ものづくり技術・研究開発支援事業

#### 取り組みプレゼンテーション

来年度、この事業に取り組んでみたいという意欲的な事業者のご参加をお待ちしています。

とき▶11月14日(月) 午後6時30分～

ところ▶勝山ニューホテル

発表者▶平成22年度事業認定者(4事業者)

☎ 商工振興課(市役所2階) ☎88-8105

これらの商品を世に出すために、全国のテーマパークや大型ショッピングセンターの特別イベントの時期を調査し、事前により高度な見識、見解を示し、注文を受けていきたいです。これまで、京都市や名古屋市のイオンに出展し、県立恐竜博物館などの認知度を高めながら、地元勝山への誘客に努めています。現在は、来年2月に開催される東京ギフトショーへの出展を目指して準備しています。